

平成26年度 第1回瀬戸市環境衛生審議会議事録		
日 時	平成26年12月10日(水) 午後2時～午後4時	
場 所	瀬戸市役所2階 201会議室	
出席者	委 員	出席者：小林会長、石神委員、河村委員、服部委員、 成瀬委員、村瀬委員、吉田委員、若松委員 欠席者：後藤副会長
	事務局	須々木部長、山内課長、中村課長補佐兼ごみ減量係長、 ごみ減量係松浦主事
1 開会		
2 瀬戸市環境衛生審議会委員の委嘱について 委嘱状を配付		
3 会長及び副会長の選任について 委員の互選により会長 小林敬幸、副会長 後藤 尚弘に決定。		
会 長	平成24、25年度と瀬戸市一般廃棄物処理基本計画の策定に参加したが、これまでと異なる方法で作成した。 岡崎市と合併した額田町の話だが、額田町のごみ排出量が極端に少ない理由は、ごみを集める頻度を下げていたからだったそうである。集めなくなるからごみを出さないように努力することは、一見変に思えるがごみを減量する一つの考え方なのかなと思った。名古屋市は、現状ごみの量がなかなか減少せず、どのようにしていけばよいのか行き詰っていると聞いている。瀬戸市の計画はごみを減量する余地を探し、目標を定めたものである。市民を行動へと結びつける行政の誘導、市民の行動へとつながるよう貢献していきたい。	
4 議事 (1) 瀬戸市一般廃棄物処理基本計画（平成21年度～平成25年度）の評価について		
事務局	資料1に従って説明。	
会 長	平成24年度と比較して、平成25年度の排出量は減っているのか。	
事務局	家庭系1人1日あたりのごみ排出量は、平成24年度574g/人・日から平成25年度558g/人・日へ、1日1人あたりのごみの排出量は、平成24年度727g/人・日から平成25年度713g/人・日へ、家庭系1人1日あたりの排出量は、平成24年度742g/人・日から平成25年度721g/人・日へと減少しています。	
委 員	平成19年度と比較して、平成25年度は各項目とも排出量は減少しているが、家庭系1人1日あたりのごみ排出量は目標値に達していない。資源ごみと事業系ごみが目標よりも減少したため、全体の排出量は目標を達成したように見える。一般市民のごみ減量に対する意識はまだ低いのかもしれない。	

事務局	資源ごみの排出量が減少している原因として、メディアの普及により新聞をとらなくなった家庭が増えていることが考えられる。 また、出された紙類が盗難にあっているかもしれないとの報告も受けている。
委員	新聞だけは回収日の前日に出すと、朝には盗難にあっているとの話を近所の方から聞いたことがある。 以前までは雑紙を可燃ごみとして処分している話をよく聞いたが、最近はごみに関心のある方が増えてきたため、雑紙を袋に入れて資源物として出す人が増えてきていると思う。
委員	子ども会で新聞などを集める場合、廃品回収と呼んでいるが、集めた新聞は資源として再利用されるため資源回収と呼んだほうが、子どもたちの教育にはよいのではないかと思う。 ビンや缶は資源としてどれぐらい回収されているのか。
事務局	回収量は年度によってばらつきがある。
委員	大府市の飲料メーカーに見学に行ったのだが、飲み終わった缶やペットボトルのリサイクルに関するパンフレットを配布していた。 メーカーが積極的に活動を展開していくと、資源化が進むと思う。 事業系のごみについては、企業なので意識の統一は図りやすいと思うが、家庭系のごみの場合、対象となる市民一人ひとりの意識を統一することは難しいと思う。
(2) 瀬戸市一般廃棄物処理基本計画（平成26年度～平成35年度）の進捗状況について	
委員	瀬戸市ごみ減量推進会議議長より資料2に従って説明。
委員	会議を開催した際の出席率はどれぐらいか。
委員	瀬戸市ごみ減量推進会は8～9割程度である。分科会はメンバー4名中3名程度が出席するような状況である。
委員	3～4名の分科会で、教育などに関する取り組みを進めていくには内容が難しくないか。分科会で進めるのではなく、重要な項目について全体で進めるのはどうか。
事務局	分科会を設けた経緯は、一般廃棄物処理基本計画の基本理念を実現するために、早期かつ重点的に取り組む必要のある項目が複数あり、同時にいくつかの施策を実施していかなければならないと考えたからである。
会長	Re瀬戸は、後藤副会長も関わって進めてきた取り組みであるが、コスト面などうまく進まない原因がある。取り組みを進めるためにはこの原因を解決しなければならず、それは市民が努力してもなかなか解決できない。この取り組みを市民が取り組む活動とすることには無理があるのではないか。陶器のリサイクルが進めば、地場産業育成と反する面も出てくるかもしれない。 小中学校から排出されるごみの多くが給食残渣だとするならば、排出量を把握することは必要かもしれない。

委員	<p>学校教育の場をうまく利用して、子どもたちに食べ残しはもったいないという意識を植え付けたい。子どもたちへの教育は家庭にも反映されていくと思う。学校から排出された給食残渣がどのように処分されているのか知らない先生もいると聞いているので、排出量を減らすことも当然大切だが、意識を変えることが大切だと思う。</p>
会長	<p>学校の教員は多忙のため、問題点を指摘する方法では、取り組みは進んでいかないだろう。実行可能な具体的な方法をいくつか示すことが、取り組みを実施してもらうためには効果的ではないか。</p>
事務局	<p>昨日、分科会が Re 瀬戸について、愛陶工の生産部長と Re 瀬戸委員長からヒアリングした内容を報告します。</p> <p>愛・地球博の開催を契機に Re 瀬戸のプロジェクトが発足した。当初はマグカップなどを製作し業者に納品した実績があるが、品質を保つことが難しく、割れてしまうといった問題が発生し、当時はまだ完成の域には達していないとの結論であった。また、再利用した原料を使用した食器に抵抗があるとの意見もあったそうである。そのため路盤材、健康器具など他の製品開発やPRを行ったが、現在軌道に乗っているものはほとんどないそうである。どうしてもコストが割高になるため流通が課題になっているが、万博を機に開発してきた Re 瀬戸の取り組みをこのままで終わらせたくないの、研究を続けていきたいとの言葉をいただいた。</p>
委員	<p>せともの祭でPRすることはできないか。新品の製品を販売するだけでなく、この取り組みをPRできるとよいと思う。</p> <p>学校をターゲットとした取り組みについて、対象から中学生を除き小学生だけとした理由はなにか。</p>
委員	<p>小学校数は20校と多く、すでに小学4年生でごみ処分場の見学を実施しているため、取り組みを開始しやすいのではないかと考えた。</p>
委員	<p>小中学校一貫での教育を行ってもよいのではないか。</p> <p>現状、高齢者の人口が増えているので、高齢者特有の問題に向けた取り組みもあるのではないか。</p> <p>瀬戸市ごみ減量推進会議のメンバーは11名であるが、自治会などを通じてメンバー数を増やしていくのか。</p>
委員	<p>自治連合会内には、防災、防犯、環境・公共交通の3つの部会がある。環境・公共交通の部会メンバーのうち2名が瀬戸市ごみ減量推進会議に参加しているところである。</p>
委員	<p>瀬戸市ごみ減量推進会議メンバーの自治会の方から、衛生委員を活用してはどうかとの意見をもらった。</p>
委員	<p>私の住む地域では、生ごみは畑の肥料として使用するが、同じことが出来ない地域もある。学校から排出される生ごみが捨てられているのはもったいない。学校周辺の豚舎と協力し、コンポストを使用して飼料に再利用できたらよいと思う。</p>
委員	<p>かつてコンポストの使い方について講座を受講したことがあるが、もっと実施したほうがよいと思う。</p>
会長	<p>商工会議所では、事業系廃棄物の排出量やリユースについて議題になることはあるのか。</p>

委員	女性会や青年部としては勉強会などは開催されているが、商工会議所本体としては、現時点ではそこまで具体的に何か取り組みを進めてはいない。
会長	事業者ごとに排出量の目標を定めるような取り組みはないのか。
委員	事業者各自では取り組んでいると思う。
会長	排出量を報告してもらっただけでも、かなり意識は変わってくると思うので議論をしてみしてほしい。
委員	瀬戸市環境パートナーシップ事業者会議が、環境にやさしい事業者認定制度というものを実施しているので参考にしてみてもどうか。
会長	進めることが難しい取り組みもあるかもしれないが、ぜひごみ減量推進会議と行政とで協働して施策を進めていってほしい。
(3) その他 平成26年度ごみ組成調査の結果について	
事務局	資料に従って説明。
委員	調査地域は昨年度と同じか。
事務局	同じである。
会長	まとめはごみの重さの割合であるため、体積はこの割合とかなり乖離する。可燃ごみを分別すると、プラスチック容器包装を集めるカゴがすぐに一杯になったため、体積では圧倒的にプラスチック容器包装が多かったイメージがある。
委員	可燃ごみに紙おむつがかなり含まれているが、昔は布製のおむつを使用していたが、25年前ほどからほとんどの人が紙製のおむつを使用するようになったためだと思う。大人用の紙おむつはあったのか。
事務局	ほとんど子ども用であった。
会長	ごみ組成調査結果をもとに、どのようなことを取り組むとよいかを考える必要がある。
事務局	可燃ごみのうち、生ごみが約4割を占めていることから、ごみを減量するための大きなターゲットであると言える。プラスチック容器包装については、重量では8%の割合であるが、容量としてはかなり多かったため、発生、収集、廃棄に至る一連の過程における環境負荷を考慮し、効率的かつ効果的な分別、収集の導入を検討することとしている。 不燃ごみについては、買い取ってもらえる小型家電が不燃ごみとして捨てられていることから資源回収機能の充実が必要であり、陶磁器が約2割含まれていたことから廃陶磁器の資源化の促進が必要であると言える。
会長	名古屋大学では、雑紙を処分するためのごみ袋を200円ぐらいで購入している。専用のごみ袋があると、一般のごみ箱ではなく専用のごみ袋に捨てるようになるものである。
委員	可燃ごみ袋にごみは直接入っていたのか。
会長	ごみをレジ袋に一旦入れたものが、可燃ごみ袋に入っていた。

委員	ごみの出し方が悪い方に対して、周知などをするがなかなか難しい。
会長	夏休みの宿題としてポスターを作成してもらうのも面白いかもしれない。
次回会議の日程について	
事務局	<p>次回の開催日程は現在決まっていないが、環境衛生審議会での協議が必要な事案が発生し次第、あらためて調整し、開催の案内をする。</p> <p>また、委員の任期は1年であるが、新しい計画がスタートしたばかりであるため数年は現在のメンバーで会議を開催していきたい。</p>
5 閉会	